

全国小学校道徳教育研究会第45回夏季中央研修講座参加報告

〇はじめに

本研修講座は、1日目に講演①及び模擬授業と研究協議会、2日目に講演②講演③が行われました。道徳科の授業改善の視点から日頃より優れた授業実践をされている3名の先生方が模擬授業を行ってくださり、その後の研究協議会で道徳の授業づくりについて協議し、講評をいただくという内容でした。本県は、動画配信形式で参加しました。以下にその概要を報告いたします。

1 日時 令和7年7月31日(木)～8月1日(金)

2 会場 東京都練馬区立関町北小学校

3 内容

【1日目】

(1) 講演①「考え、議論する道徳」の質的充実の視点からの授業改善」

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 堀田 竜次 先生

〈概要〉

- 「特別の教科 道徳」の目標の実現に向けた取組について、教師の指導に関する認識と児童の受け止めに関する認識に差があり、より一層「考え、議論する道徳」の質的充実等の視点からの授業改善を図っていくことが必要である。
(R6.7速報版 R4小学校学習指導要領実施状況調査結果)
- 道徳教育推進教師を中心に全教師がカリキュラムマネジメントを強く意識した指導を行う必要がある。そのためにも、引き続き道徳教育の全体計画、年間指導計画を学校の教育目標、児童の実態、保護者や地域の人々の実態に応じた計画となるようにしていくことが大切である。
- 道徳科の特質は内面的資質を主体的に養っていく時間である。さらに人生いかに生きるべきか、生き方の問いを考える学習である。
- 狙いと教材を端的に表した主題名を大切にする。主題名と狙いと中心的発問が一貫していて、主題名を明確な意図を踏まえて設定してほしい。
- 明確な指導の意図を持ち、考え議論する、主体的に考え自己を見つめる時間をとる、さらには対話的に多面的多角的に考える場の設定も大切である。
- ICT端末を活用したりグループ学習を取り入れたりすることによって、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を図る。
- 評価は教師にとっては、指導の充実や改善のために、子供にとっては自らの成長や意欲につなげていく評価でなくてはならない。

(2) 模擬授業 中学年分科会 高学年分科会

授業者 【滋賀県】滋賀県彦根市立稲枝東小学校 教諭 北沢 和也 先生

- ① 主題名 ほんとうの友達 内容項目：B 友情・信頼
② ねらい どうすることが友達の気持ちや立場を考えた相手のためになる行動なのかを考えるを通して、互いに信頼し友情を深めようとする実践意欲を育てる。

③ 教材名 「ロレンゾの友達」

④ 模擬授業の様子

- 導入では、生徒が道徳的価値を意識できるように、「ほんとうの友達」について、友達との関わりを想起させて生活と学習をつなげて考えられるようにしていた。
- あらかじめ登場人物を紹介し、「ほんとうの友達」という視点で3人の思いに注目することで課題意識を持って教材に出会えるようにしていた。
- 長い時間を越えても会いたいと思う仲の良い友達であったことを捉えられるように範読のあとに、20年ぶりに会いたいという手紙の内容を確認した。
- 3人の友達それぞれの考えや主人公に対する共通の思いに寄り添えるように、板書で視覚的に示すとともに、どうすることが本人のためになるのかという点を、問い返し発問によって多面的・多角的な考えを引き出していた。
- 中心発問では、教材にはない仮定の発問「ロレンゾが3人の思いを聞いたとしたらどんな気持ちになるでしょう」を通して、3人それぞれの相手を思う行いが友情を深め信頼につながっていくことを自覚できるようにしていた。
- 「はじめは、今日考えて、これからは」といキーワードを示したワークシートを活用し、自分の気持ちをつなげて振り返ることができるように工夫していた。

⑤ 講評 全国小学校道徳教育研究会 第28代会長 吉本 恒幸 先生

- 道徳科の授業づくりは、①教材が指し示す道徳的価値を把握する②明確な指導観に基づく価値理解の発問を構想する③道徳科の特質を踏まえた指導過程を大切にしている。
- ①について、高学年の内容項目で考えると、3人が心の底から信じられてはいなかったことを押さえた上で、ほんとうの友達であるためには何があってもまず友を信じること、今の自分は友達を信じてつながりを持っているか自己を見つめさせていくことで教材を活かせる。
- ②について、中心発問からさらに進めていく中で教材から道徳的価値を理解するための意図的な発問を投げかけていたことで深い学びにつながる。
- ③について、価値を考えた上で、「自己を見つめる」ことを確実に位置づける。
- 学習に使用したワークシートはマスの枠の有無を工夫し、ユニバーサルに考えられた2種類が用意されていた。個の特性に配慮された準備であった。
- 非常に意欲的な研究と授業を拝見できた。

【2日目】

(1) 講演②「自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業構想」

秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 先生

- 学校における道徳教育は、児童の発達段階を踏まえて行う。一人一人個性をもった個人であるので、特性等は異なっていることを意に用いるとともに、成長発達の様子やそれぞれの段階の実態等を考慮して指導を進める。
- 自己の生き方についての考えを深める根本は、主体的な学び、対話的な学び、深い学びであり、価値の押しつけや主体性を持たずに行動するよう指導することなどは道徳教育の目指す方向と対極である。
- 道徳科の主題は、何をねらいとしてどのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示す。
- 教師の指導観、児童観、教材観を明確にした授業の構想が重要である。教材観は考え議論する集団思考を促すためにも必要である。必ずしも中心場面と中心発問が一致するわけではない。最も考えさせたい場面を明らかにして中心発問を設定する。
- 「道徳的価値について理解する」「自己を見つめる」「物事を多面的多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」学習が、1時間の授業の中に必ず入っていることが大事である。
- 学習活動を通して自分の良い点や可能性を見つけられるよう引き出し、実感できるように発問を考える。何を考えさせ気付かせ、何を学習させるのかを明確にする。
- 授業評価のための手段として、授業記録をとって自分をモニタリングしたり短い時間でも他の教員と互いに授業を見合ったりすることも大事にしていきたい。

(2) 講演③道徳教材の作り方・読みとり方・活かし方

児童文学作家 くすのき しげのり 先生

- 物語る力のある作品を読むことは、「想像する力」「共感する力」で作品の世界が広がり心の窓を開く。
- 道徳教材について
 - ・児童の発達段階に即し、ねらい達成にふさわしいもの
 - ・悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を含め児童が深く考えることができ、よりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること（人間尊重の精神）
 - ・多様な見方考え方でできる事柄を取り扱う場合は、特定の見方や考え方に偏っていないもの
- 道徳教材の読み取り方
 - ・行間を読み取るトレーニング、「想像する力」「共感する力」、相手の心を察する、慮る、押し量る、思いやる力を大切に。
- 道徳教材の活かし方
 - ・ディスカッションや書く活動の工夫、学習したことを様々な場面で活用する。